

平成 25 年 3 月 28 日
独立行政法人国民生活センター

医療機関ネットワーク事業からみた家庭内事故 —子ども編—

2010 年 12 月から 2012 年 12 月末までの約 2 年間で、医療機関ネットワーク事業^(注1)に参画する 13 医療機関から 9,889 件^(注2)の事故情報を収集した。子どもを対象とした医療機関から多くの事故情報が寄せられたことから、年齢別では 12 歳以下の子どもの事故情報が 7,997 件^(注2)と全体の約 8 割を占める^(注3)。

12 歳以下の事故情報 7,997 件のうち、事故発生場所が「住宅内」の事例が 5,390 件と約 7 割を占めていることから、住宅内で起こった事故を「家庭内事故」として、事故の事例を中心に危害の種類と内容について分析結果をまとめた。

(注 1) 医療機関ネットワークとは、2010 年 12 月から運用が開始された消費者庁と国民生活センターとの共同事業で、消費生活において生命または、身体に被害が生じる事故に遭い医療機関を利用した被害者から、事故の詳細情報を収集するものである。

(注 2) 2010 年 12 月～2012 年 12 月末までの伝送分。

(注 3) 本資料では 0 歳-12 歳までを「子どもの事故」として分類した。

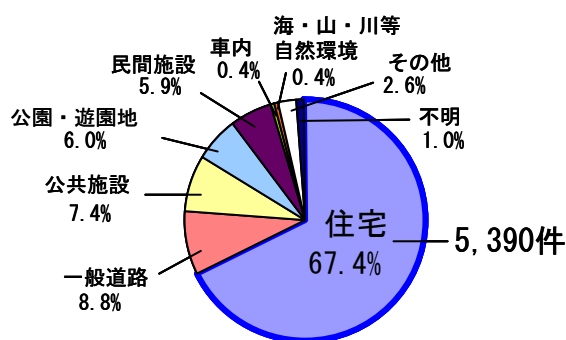
1. 医療機関ネットワーク事業における子どもの家庭内事故について

医療機関ネットワーク事業に参画している 13 医療機関より、12 歳以下の子どもの事故情報が 2010 年 12 月から 2012 年 12 月末までに 7,997 件寄せられている。そのうち、「住宅」での事故は 67.4% (5,390 件) を占めた (図 1-1)。更に細かく年齢を区切る^(注4)と、0 歳以上 2 歳未満の事故 3,107 件では 85.1% (2,645 件)、2 歳以上 6 歳未満の事故 3,382 件では 63.5% (2,147 件)、6 歳以上 12 歳以下の事故 1,508 件では 39.7% (598 件) であった。

年齢が高くなるにつれ、住宅内での事故の割合が減少していた (図 1-2) が、どの年齢でも「住宅」が最も多いことから、「事故発生場所=住宅」での事故を「家庭内事故」とし、12 歳以下の子どもの家庭内事故 5,390 件を中心に分析した。以下、特段の説明がない限り、資料内にある件数・割合は 12 歳以下の子どもの家庭内事故 5,390 件を分析したものである (分析内容は「5. 医療機関ネットワーク分析内容」参照)。

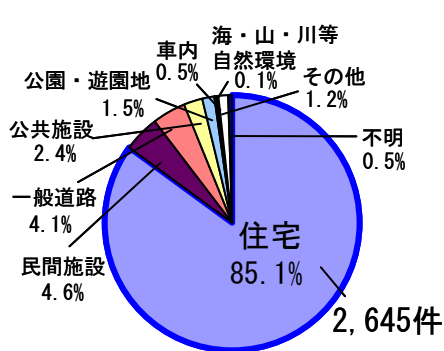
(注 4) 児童福祉法 第四条を参考に区分(「6. 参考資料」参照)

図 1-1 事故発生場所 1

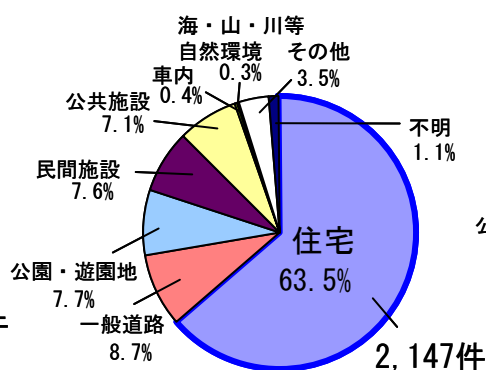


12 歳以下 (n=7,997)

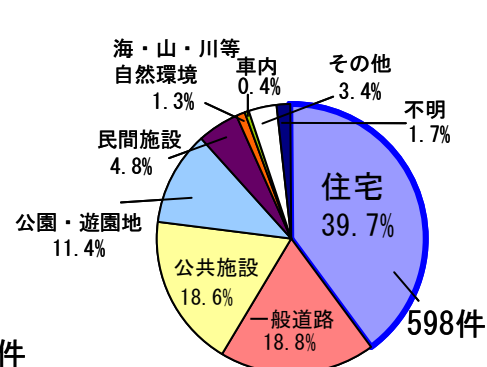
図 1-2 事故発生場所 1 (12 歳以下の内訳)



0 歳以上 2 歳未満 (n=3,107)



2 歳以上 6 歳未満 (n=3,382)



6 歳以上 12 歳以下 (n=1,508)

2. 事例等からみた子どもの家庭内事故の特徴

(1) 成長・発達段階による特徴

子どもは成長・発達段階によって知能や身体能力の差が激しいため、事故の傾向も年齢によって変化する。事故のきっかけをみると、以下の2点の特徴がみられた。

目に付いたものを口に入れてしまい、0歳以上2歳未満では「誤飲・誤嚥^{ごえん}」が19.2%(509件)なのに対し、2歳以上6歳未満では9.9%(213件)、6歳以上12歳以下では6.2%(37件)と割合が減少していた。主なものはタバコや電池等の誤飲であった(別表)。ボタン電池が喉や食道にとどまると電流が流れて粘膜を損傷し、ひどい場合には孔が開いて死亡することもあると言われている。

一方、「ぶつかる・当たる」ことによるけがの割合は年齢が上がるにつれ徐々に高くなり、0歳以上2歳未満では11.1%(293件)であるが、2歳以上6歳未満では19.0%(407件)、6歳以上12歳以下では23.9%(143件)であった。主な事例は、部屋の中で転倒して机やテーブルにぶつかるなどであった。

1) 主な事例

◆0歳以上2歳未満

(a) 階段、ベッド、ソファ等からの転落

【事例】

ソファから落ちてしまい、腕を骨折した。

(2011年9月発生、1歳1カ月、女児、重症)

【事例】

母が台所の火を確認するため、目を離したすきにソファから転落して頭部を打撲した。

(2011年9月発生、1カ月、女児、中等症)

【事例】

3階から2階まで階段を転落し、頭部を打撲して硬膜外血腫^{こうまくがいけっしゅ}になった。

(2012年4月発生、1歳10カ月、女児、中等症)

【事例】

大人用ベッドで昼寝をさせていたところ、転落して頭部を打撲した。ベッドの周りをクッションで落ちないようにカバーしていたが、それを乗り越えて転落した。

(2012年9月発生、7カ月、男児、軽症)

(b) 家電類、暖房器具、食品等でのやけど

【事例】

ステンレスポットをひっくり返してしまい、熱湯がかかって2度のやけどを負った。

(2011年10月発生、6カ月、女児、重症)

【事例】

台所にあった電気ポットのお湯をかぶってしまい、前胸部と背部に2度のやけどを負った。

(2012年10月発生、9カ月、男児、重症)

【事例】

ポットのお湯を浴びてしまい、腹部にやけどを負った。

(2012年4月発生、10カ月、女児、重症)

【事例】

床においてあった卓上ケトルをハイハイして倒してしまったようで、お湯がかかってしまい、あごや胸部にやけどを負った。

(2011年11月発生、6カ月、女児、中等症)

【事例】

石油ファンヒーターの近くで授乳したところ、足にやけどを負った。

(2011年1月発生、0カ月、男児、軽症)

【事例】

出来立てのスープの鍋をひっくり返してしまい、手にやけどを負った。

(2012年2月発生、10カ月、男児、軽症)

【事例】

炊飯器の蒸気吹き出し口から出ている蒸気に手をかざし、手のひらに1度のやけどを負った。

(2011年2月発生、1歳1カ月、男児、軽症)

(c) 風呂場での転倒、^{でますい}溺水

【事例】

家族がお風呂の近くにある洗面所で顔を洗っていたところ、子どもがお風呂に浮いているところを発見した。浴槽は60cm位の高さで、身長75cmの子どもが両手で水遊びが出来るくらいの高さ。浴槽内に玩具が沈んでいたため、浴槽内で遊んでいた可能性が高い。

(2012年10月発生、1歳3カ月、男児、中等症)

【事例】

母が洗い場で身体を洗っている最中、浴槽の中に立っておもちゃで遊んでいた。母が目を離したときに滑る音がしたため見てみると、水面にうつぶせに浮いて手足をバタつかせて溺れていた。

(2012年2月発生、1歳8カ月、女児、中等症)

【事例】

浴槽でつかまり立ちをしていたところ、せっけんで足を滑らせ浴槽のふちで顔面を打撲した。

(2011年6月発生、11カ月、女児、軽症)

(d) タバコ、電池等の誤飲・誤嚥

【事例】

コの字型のステープラーの針を飲み込んでしまい、内視鏡で摘出手術を行なった。

(2012年10月発生、8カ月、男児、中等症)

【事例】

携帯電話についていたプラスチック製のストラップを誤飲してしまった。

(2012年5月発生、3カ月、男児、軽症)

【事例】

キッチンタイマーのボタン電池を飲み込んだ。

(2012年7月発生、10カ月、女児、軽症)

【事例】

テーブルの上に置きっぱなしだったタバコを子どもが食べていた。

(2011年6月発生、10カ月、男児、軽症)

【事例】

台所の床に置き忘れていた洗剤を舐めてしまった。

(2011年2月発生、11カ月、女児、軽症)

◆2歳以上6歳未満

(a) 階段、ソファ等からの転落

【事例】

椅子から飛び降りて遊んでいたところ、着地時におもちゃなどに当たり、転んで顔面を打撲した。

(2012年6月発生、4歳4カ月、女児、軽症)

【事例】

ソファからジャンプして遊んでいたところ転落し、後頭部を打撲した。

(2012年9月発生、4歳5カ月、男児、軽症)

【事例】

階段からおもちゃ箱に乗ったまま滑り落ち、ひじを強打した。

(2011年6月発生、4歳5カ月、男児、軽症)

(b) 居室、浴室での転倒、溺水

【事例】

母親と入浴していたが、母親が父親と交代するために目を離したすきに、浴槽内でうつぶせの状態で見失われていた。

(2011年8月発生、2歳4カ月、女児、中等症)

【事例】

風呂場の段差で足を滑らせて後ろへ転倒し、後頭部を打撲した。

(2012年8月発生、4歳0カ月、男児、軽症)

【事例】

居間で兄とふざけて遊んでいたところ、バランスを崩して転倒し、テーブルの角で頭部を打撲した。

(2011年4月発生、4歳3カ月、女児、軽症)

(c) ぶつかった、当たった、接触したことによるけが

【事例】

ストーブ上のやかんをひっくり返してしまい、腕や肩、背中等に2度のやけどを負った。

(2011年1月発生、3歳8カ月、男児、重症)

【事例】

いたずらでガスコンロをいじっていたところ、火がついて顔面に2度、両手や両足には1度のやけどを負った。

(2012年2月発生、2歳10カ月、女兒、中等症)

【事例】

耳掃除中に急に動いたため、耳かきの先が折れて中に入り、出血した。

(2012年2月発生、2歳4カ月、男児、軽症)

【事例】

部屋を飛び回っていて扉にぶつかり、顔面を強打した。

(2012年9月発生、4歳9カ月、男児、軽症)

(d) 玩具等の誤飲・誤嚥

【事例】

磁石のおもちゃを誤飲してしまい、全身麻酔をして内視鏡で摘出した。

(2012年2月発生、5歳2カ月、男児、重症)

【事例】

ピーナツを食べた直後にむせてしまい、気管支鏡で除去した。

(2011年1月発生、3歳6カ月、男児、重症)

【事例】

アイロンでくっつくビーズを鼻に入れてしまった。

(2011年4月発生、2歳11カ月、女兒、軽症)

◆6歳以上12歳以下

(a) ぶつかった、当たったことによるけが

【事例】

割り箸3本をくわえたまま父と衝突し、咽頭後壁^{いんとうこうへき}を裂傷した。

(2012年9月発生、7歳1カ月、男児、中等症)

【事例】

子ども部屋で父と弟と遊んでいた。部屋のドアを父が締めようとした時に、その隙間をわざと通ろうとして、滑ってドアの角に前額部をぶつけた。

(2012年5月発生、8歳3カ月、男児、軽症)

【事例】

室内で遊んでいるときに転倒しテーブルに耳をぶつけた。

(2011年12月発生、6歳2カ月、男児、軽症)

【事例】

自分で耳を綿棒で掃除していたときに、誤って深くつまこんでしまい出血した。

(2011年7月発生、9歳3カ月、男児、軽症)

(b) 階段、浴室等での転倒

【事例】

自宅ですまづき転倒し、手を床について骨折した。

(2011年7月発生、7歳10カ月、男児、中等症)

【事例】

自宅ガレージの階段に足を打撲して出血した。

(2012年9月発生、8歳11カ月、男児、軽症)

【事例】

浴室で転倒し、頭部をタイルで強打した。

(2011年1月発生、12歳6カ月、男児、軽症)

(c) 階段、椅子、ベッド等からの転落

【事例】

駐車場の高い所に登って遊んでいたところ転落し、腕を骨折した。父親が一緒にいたが見ていない時だった。

(2011年7月発生、6歳0カ月、女児、重症)

【事例】

2段ベッドから転落し、左第3指を不全切断、左第2指を挫傷、上下歯肉に挫滅創さめつそうを負った。

(2012年4月発生、8歳6カ月、女児、中等症)

【事例】

急いで自宅の階段を下りたら2-3段踏み外し、右膝から下のあたりを床に強打した。

(2011年5月発生、9歳7カ月、女児、軽症)

【事例】

回転する椅子から転落し、床に右手からついた。

(2012年5月発生、11歳10カ月、女児、軽症)

(d) 食料品、暖房器具等によるやけど

【事例】

カップやきそばに入れたお湯を捨てるときにつまづいてしまい、お湯が足にかかって2度のやけどを負った。

(2012年8月発生、12歳1カ月、男児、中等症)

【事例】

カップラーメンの汁を腰にこぼし、2度のやけどを負った。

(2011年10月発生、12歳10カ月、男児、中等症)

【事例】

ストーブで温めていた湯たんぽの熱湯が噴出し、顔面と前胸部・右側側胸部に2度のやけどを負った。

(2012年4月発生、11歳7カ月、男児、軽症)

(2) 事故内容による特徴

1) 階段、ベッド、ソファからの転落

子どもの家庭内事故 5,390 件のうち、事故のきっかけで最も多いものは「転落」29.5% (1,588 件)であった。「転落」の中では「階段」28.6% (454 件)、「ベッド」15.6% (248 件)、「ソファ」12.1% (192 件)の順に事故が多かった。特に 0 歳以上 2 歳未満では、大人用ベッドやソファに寝かせておいたところ、転落してしまった事例が目立った。転落防止のためにクッション等を置いている場合もあるが、それを乗り越えて転落してしまう事例もあった。

2) 風呂場での転倒、溺水

「風呂場」は転倒、溺水等も起こりやすい場所である。子どもの家庭内事故 5,390 件のうち、「風呂場」の事故は 194 件で、そのうち事故のきっかけで最も多いものは「転倒」56.2% (109 件)であり、二番目に多いのは、「溺れる」8.2% (16 件)であった。家庭内にある浴槽は子どもにとっては底が深く、大人からみるとそこまで深くないと思われる水位でも溺水事故が起こりうる。家族と一緒にいる場合に、家族が自身の体等を洗って少し目を離れた隙に子どもが溺れてしまったという事例や、入浴中以外に風呂場に入って溺れてしまった事例もみられた。

3) 調理器具や食料品、暖房器具等によるやけど

子どもの家庭内事故 5,390 件のうち、「熱傷」は 10.5% (567 件)である。危害の程度が「重症」な事例が 16 件のうち「熱傷」は 6 件であり、最も多かった。炊飯器の蒸気口やガステーブルなどの調理器具に触れてしまったのやけど^(注5)や、食事中に食卓に並んでいたみそ汁やスープ、即席めんのお湯などをこぼしてしまい、やけどを負う事例等がみられた。また、電気ケトル^(注6)やポットによる事例や、ストーブやファンヒーター等の暖房器具による事例もあった。

(注5) 参考：2011年3月17日公表「電気炊飯器によるやけどに注意！」

http://www.kokusen.go.jp/test/data/s_test/n-20110317_1.html

(注6) 参考：2012年11月28日公表「電気ケトルの転倒等による乳幼児の熱傷事故にご注意下さい」

http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20121128_1.html

4) タバコ、電池等の誤飲・誤嚥

子どもの家庭内事故 5,390 件のうち、事故のきっかけで「誤飲・誤嚥」は 14.1% (759 件)である。「誤飲・誤嚥」759 件の中では「タバコ」9.1% (69 件)や「電池」7.1% (54 件)の順に事故が多かった。テーブルの上に置きっぱなしにしていたタバコや吸殻のほか、おもちゃについていたボタン電池を誤飲してしまった事例^(注7)や、ビーズやおもちゃの部品などを誤飲した事例もみられた。

(注7) 参考：2005年4月6日公表「命を落とすこともある！子どもの誤飲事故」

http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20050406_2.html

3. 専門家からの助言

緑園こどもクリニック院長

独立行政法人 産業技術総合研究所デジタルヒューマン工学研究センター

傷害予防工学研究チーム長

山中 龍宏 医師

子どもの事故の実態は？

成人の死因の第1位は「がん」ですが、子どもの死因の第1位は何だと思いませんか？1960年以降、0歳を除いた子どもの死因の第1位は「不慮の事故」となっています。最近では、第2位となっている年齢層もありますが、不慮の事故が子どもの死因の上位を占める状況は今後も変わりません。

1-4歳の年齢層では、不慮の事故による死亡1件に対し、入院を必要とする事故は40件、外来受診が必要な事故は4,000件と推定されています。生まれてからの3年間に、10人中7-8人の子どもが医療機関を受診するような事故を経験しています。子どもの生活環境に新しい製品が出回ると、必ず新しい事故が発生します。また、事故は1件だけということではなく、必ず複数件、発生します。

保護者の多くは「まさか、うちの子に限って」「私が見ているから大丈夫」と思っていますが、それで予防はできません。3歳未満の子どもでは、8割の保護者が子どものそばにいて、そのうちの6割は見ている目の前で事故が起こっているのです。すなわち「事故は必ず起こる」「ひょっとしたら、うちの子にも」と考える必要があります。

「事故」は英語で accident といいますが、この言葉には「予測できない、避けられない」という意味が含まれています。事故を分析してみると、「予測できる、予防できる事象」と考えられるようになり、最近では injury (傷害) という言葉が使われるようになりました。予測することができれば、予防策を考えることができます。もちろん、すべての事故を防ぐことはできませんし、その必要もありません。

事故の予防に取り組む時は、自分の子どもの月齢、年齢で起こりやすい重症度が高い事故、発生頻度が高い事故を知って、それに対して前もって予防策をとる必要があります(「6. 参考資料」(3)参照)。

今回まとめられたデータを見ると、20年以上前に報告されたデータとほとんど同じデータとなっています。すなわち、何カ月、あるいは何歳になったらどういう事故が起こるかがはっきりわかっているということです。この資料からお子さんの年齢で起こった事故を知って、今日、家庭内の環境整備に取り組んでください。

4. 事故を防ぐための注意点

(1) 子どもを高さがある場所に乘せたら目を離さないようにしましょう。柵や囲い等で転落を防ぎましょう

家庭内事故では転落による事故が最も多く、特に0歳以上2歳未満や2歳以上6歳未満で多くみられます。特に0歳以上2歳未満では、大人用ベッドやソファに寝かせておいたところ、転落してしまった事故が目立ちました。高さのある場所に子どもを乗せる場合は、目を離さないようにしましょう。また、柵や囲いを設置したり、落下時の衝撃を和らげるような素材のマットやカーペット類を床に敷いたり、床に固いものや突起物があるようなものを置かない等、部屋の環境の工夫も重要です。

(2) 入浴中は子どもから目を離さないようにしましょう。入浴中以外でも、子どもを風呂場に簡単に近づけないようにしましょう

親と一緒に入浴中に、親が自身の洗髪や兄姉の世話をするため少し目を離した間に溺れてしまうこともあります。入浴中は子どもから目を離さないようにしましょう。また、入浴中以外にも、浴槽に水がはっていた状況で子どもが浴室内に入り、溺れた事例もあります。残し湯をしないことに加えて、風呂場のドアや浴槽のふたを閉めておく等、子どもを安易に近づけないようにしましょう。

(3) 火や電気等のやけどを負う危険があるものには子どもを近づけないようにしましょう

子どもは何にでも興味を持って触りたがるため、触ってけがをするおそれのあるものは極力子どもの目に触れないようにしましょう。特に調理中は火や電気などに触れるとやけどを負う危険があるため、子どもを安易に近づけないようにしましょう。また、台所はガステーブルやオーブントースター等のほか、包丁やスライサー等の刃物類も集まる場所であり、注意が必要です。

(4) タバコや電池等は子どもの手に触れるところに置かないようにしましょう

誤飲・誤嚥の事故は特に0歳以上2歳未満で多くみられます。子どもは3カ月～4カ月で物を手でつかめるようになり、5カ月～6カ月にはつかんだ物を口に持っていくようになるのですが、食品とそれ以外を区別できるようになるのは早くても1歳6カ月～2歳以降とされています^(注7)。特にタバコは体内に入ると死に至るおそれがあるため、絶対にタバコを子ども手に触れるところに置かないようにしましょう。また、灰皿等にたまった吸い殻等もすぐに処分しましょう。タバコや電池以外にも、子どもが興味を示しそうなものは手の届かないところに置く等、こまめに片付ける手間を惜しまないようにしましょう。

(5) 商品選びを工夫しましょう

必要に応じて、子ども向け、乳幼児向けの安全性の高い商品や、使いやすく工夫されたキッズデザインの商品も活用しましょう。

子どもは日々成長・発達し、昨日はできなかったことが今日ではできるようになります。その過

程では必ず事故が発生するということを理解しましょう。事故の予防に取り組むときには、自分の子どもの月齢や年齢で起こりやすい事故、重症化しやすい事故、発生頻度が高い事故は何なのかを知り、それに対して家庭内の環境設備を整えて予防策をとることがとても重要です。

例えば、階段やベッド等からの転落を防ぐには、階段に行かないように柵を設置することや、ベビーベッドの柵は常に上げておき、柵がない大人用ベッドやソファ等には寝かせないようにしましょう。誤飲してしまいそうな小さいサイズのものは床から1m以上の高さに置くことや、一口サイズのある程度固い食べ物は切って食べさせ、飲み物の容器には食品以外のものを入れないようにしましょう。やけどをする危険がある電気や熱を発する家電等は、子どもの手が届くところに置かない等、こまめに片付ける手間を惜しまないことも重要です。

5. 医療機関ネットワーク分析内容

以下、特段の説明がない限り、資料内にある件数・割合は12歳以下の子どもの家庭内事故5,390件を分析したものである。

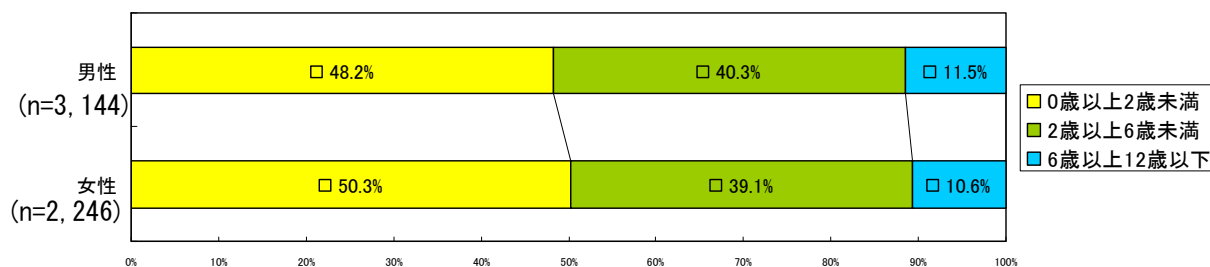
(1) 性別・年齢別

年齢が低くなるほど家庭内でけがをする割合が多く、男女ともに0歳以上2歳未満の事故が多い

性別でみると、「男性」は58.3%(3,144件)、「女性」は41.7%(2,246件)で男性の方が多かった。年齢別にみると、0歳以上2歳未満の事故3,107件のうち家庭内でけがをした割合は85.1%(2,645件)、2歳以上6歳未満の事故3,382件では63.5%(2,147件)、6歳以上12歳以下の事故1,508件では39.7%(598件)となり、年齢が低くなるほど家庭内でけがをする割合が多かった(図1-2)。

性別と年齢別でみると、0歳以上2歳未満が「男性」48.2%(1,516件)、「女性」50.3%(1,129件)となり、どの年齢の中でも男女ともに最も多かった(図2)。

図2 性別・年齢別



(2) 危害の程度^(注8)

どの年齢も「軽症」が約9割と圧倒的に多いが、窒息事故など重大な事例も発生している

危害の程度別では、「軽症」93.6%(5,047件)、「中等症」6.0%(326件)、「重症」0.3%(16件)、「重篤」0.02%(1件)であった(図3-1)。

0歳以上2歳未満では、「軽症」94.3%(2,494件)、「中等症」5.4%(142件)、「重症」0.3%(8件)、「重篤」0.04%(1件)であり、2歳以上6歳未満では、「軽症」93.9%(2,016件)、「中等症」5.8%(124件)、「重症」0.3%(7件)となり、6歳以上12歳以下では、「軽症」89.8%(537件)、「中等症」10.0%(60件)、「重症」0.2%(1件)であった。どの年齢でも「軽症」が約9割を占めており、年齢による差はあまりみられなかった。(図3-2)。「重篤」はダイエット器具に首が挟まったことによる「窒息」であった。

(注8) 医療機関ネットワークにおける危害の程度の定義

- 軽 症：入院を要さない傷病
- 中 等 症：生命に危険はないが、入院を要する状態
- 重 症：生命に危険が及ぶ可能性が高い状態
- 重 篤：生命に危機が迫っている状態
- 死 亡

図3-1 危害の程度

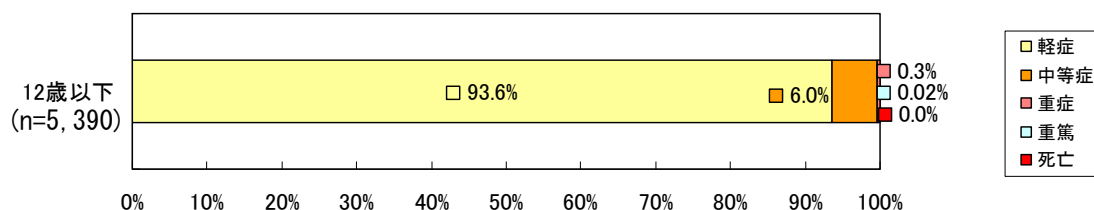
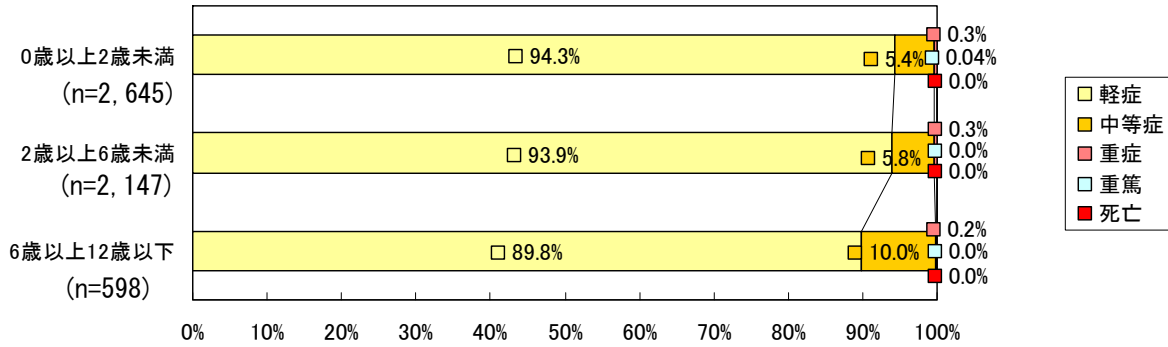


図 3-2 危害の程度(12歳以下の内訳)



(3) 危害内容

どの年齢でも「擦過傷・挫傷・打撲傷」が多く、全体の約6割を占める。「中等症」や「重症」では「骨折」や「熱傷」が多い

危害内容別では、「擦過傷・挫傷・打撲傷」56.3% (3,036件)が最も多く、次いで「異物侵入」15.4% (828件)、「刺傷・切傷・裂傷」10.8% (583件)、「熱傷」10.5% (567件)の順であった(図4-1)。「擦過傷・挫傷・打撲傷」は0歳以上2歳未満では56.3% (1,490件)、2歳以上6歳未満では59.1% (1,269件)、6歳以上12歳以下では46.3% (277件)とどの年齢でも1位であった(図4-2)。

危害の程度別にみると、「軽症」の場合は「擦過傷・挫傷・打撲傷」59.7% (3,015件)、「異物侵入」16.0% (808件)、「刺傷・切傷・裂傷」11.0% (553件)、「中等症」の場合は「骨折」36.8% (120件)、「熱傷」22.4% (73件)、「刺傷・切傷・裂傷」9.2% (30件)、「重症」の場合は「熱傷」37.5% (6件)、「骨折」18.8% (3件)、「異物侵入」12.5% (2件)、「頭蓋内損傷」12.5% (2件)、「重篤」の場合は「窒息」100.0% (1件)であった(別表)。

図 4-1 危害内容

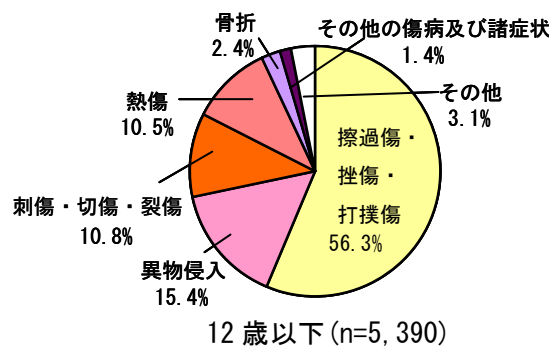
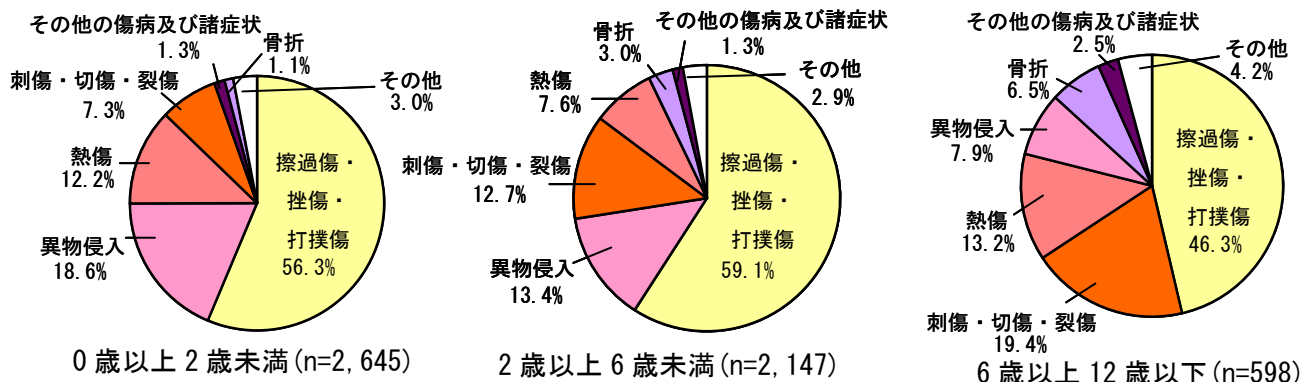


図 4-2 危害内容(12歳以下の内訳)



(4) 危害部位

どの年齢でも「顔面」や「頭部」のけがが多く、全体の約4割を占める

危害部位では、「顔面」23.0%(1,240件)、「頭部」22.2%(1,194件)、「口・口腔・歯」10.0%(541件)と続く。特に「顔面」や「頭部」はどの年齢においても1位、2位であった(図5-1、5-2、不明:0歳以上2歳未満73件、2歳以上6歳未満8件、6歳以上12歳以下3件)。

危害の程度別にみると、「軽症」では「顔面」24.0%(1,211件)、「中等症」では「上腕(肩)・前腕」21.2%(69件)、「重症」では「腹部」31.3%(5件)、「重篤」では「首」100.0%(1件)がそれぞれ最も多かった(別表)。

図5-1 危害部位(n=5,390)

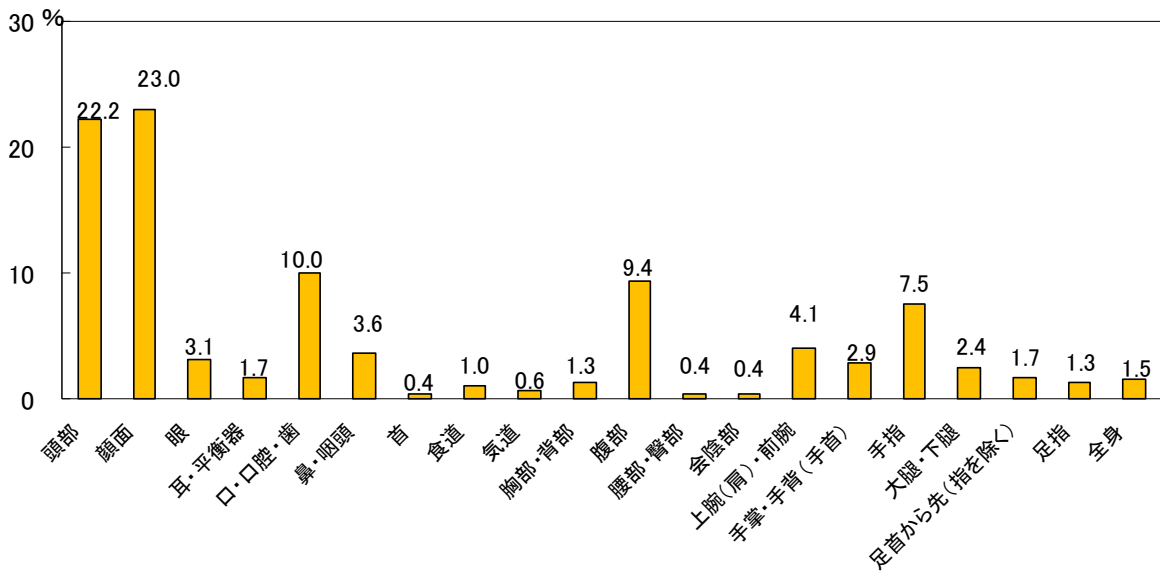
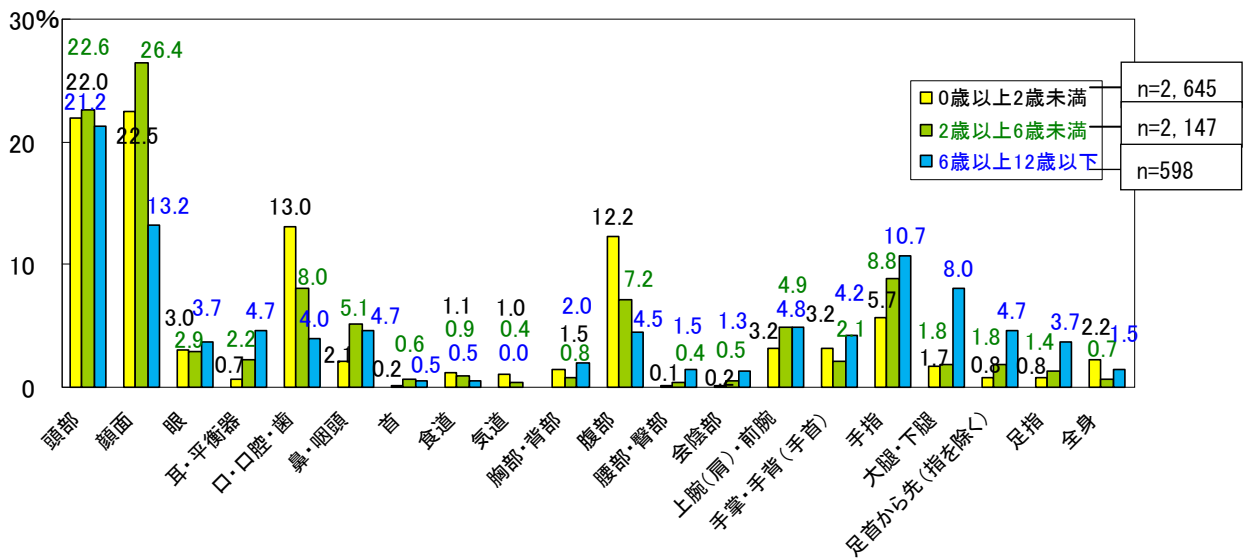


図5-2 危害部位(12歳以下の内訳)



(5) 事故発生場所

事故は「屋外」よりも「屋内」の方が多く発生しており、「居室」がどの年齢でも最も多い。「屋外」は自宅の外階段や駐車場などが約6割を占める

「事故発生場所＝住宅」の中で「屋内」での事故は93.1%(5,018件)、「屋外」は6.0%(323件)であり、「屋内」が約9割を占めた(無回答49件)。「屋内」5,018件をみると、「居室」63.8%(3,201件)、「台所・食堂」12.0%(602件)、「階段」9.6%(481件)の順であった(図6-1)。

「居室」はどの年齢層でも1位であったが、0歳以上2歳未満では67.0%(1,700件)、2歳以上6歳未満では61.4%(1,207件)、6歳以上12歳以下では56.9%(294件)と年齢が上がるにつれ、割合が減少していた(図6-2)。

「屋外」は「ベランダ」「屋根・屋上」「敷地内道路」「敷地内園庭」「その他」に分類される。「屋外」323件をみると、マンションや自宅の外階段や駐車場などの「その他」が59.8%(193件)と最も多く、「敷地内園庭」20.1%(65件)、「ベランダ」12.1%(39件)と続いた(無回答：0歳以上2歳未満2件、2歳以上6歳未満8件、6歳以上12歳以下3件)。

図6-1 事故発生場所詳細(屋内、n=5,018)

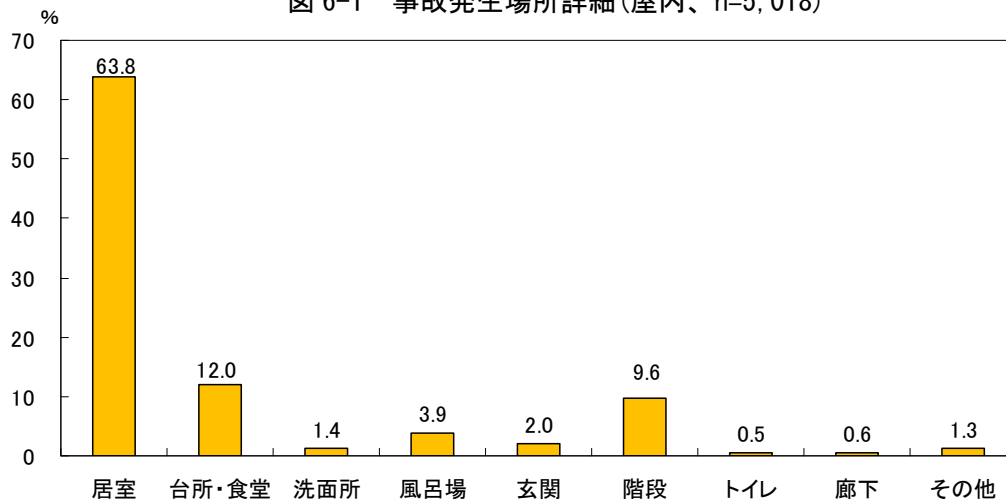
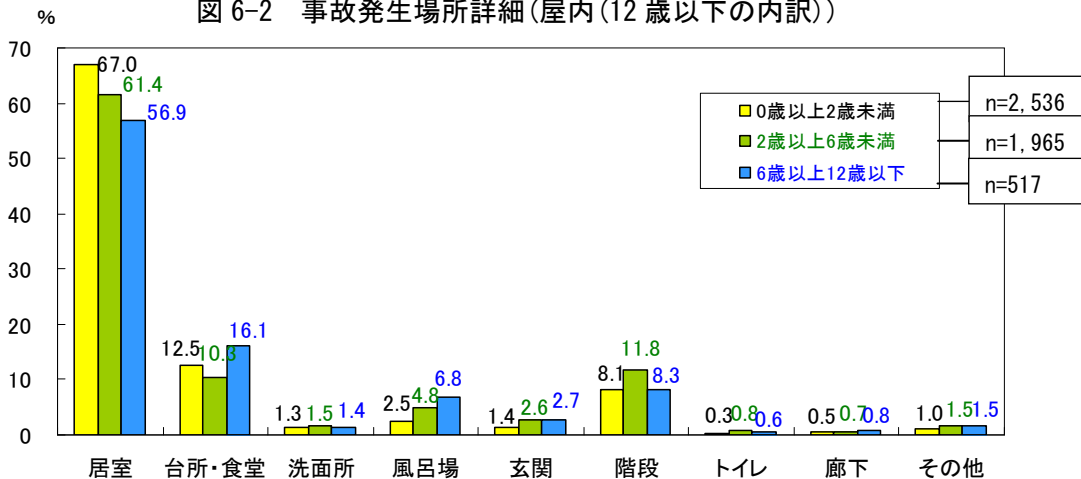


図6-2 事故発生場所詳細(屋内(12歳以下の内訳))



(6) 危害の原因となった商品・設備

0歳以上2歳未満以外の年齢層では「階段」の事故が最も多い。6歳以上12歳以下では他の年齢と比べて、けがをした商品の上位が変化している

危害の原因となった商品・設備は、「階段」10.0% (539件)が最も多く、「ベッド」5.7% (309件)、「ソファ」4.5% (241件)、「机・テーブル類」4.4% (238件)、「いす」4.4% (235件)の順であった。「階段」は0歳以上2歳未満を除く他の年齢層では1位であった(別表)。

0歳以上2歳未満、2歳以上6歳未満では原因となった商品・設備の上位5種の中に上記の5種が4種以上含まれていたが、6歳以上12歳以下になると、上位5種内には「階段」「いす」のほかに、耳かき、湯たんぽなどの「保健衛生品その他」3.8% (23件)、「即席めん」3.0% (18件)が含まれるようになった(別表)。

(7) 事故のきっかけ

「転落」「転倒」が全体の事故の約半数を占める。年齢が上がると、「ぶつかる・当たる」ことによるけがが増加する

事故のきっかけは、「転落」29.5% (1,588件)が最も多く、「転倒」18.3% (989件)、「ぶつかる・当たる」15.6% (843件)の順であった(図7-1、不明2件)。

0歳以上2歳未満では「転落」35.2% (930件)、「誤飲・誤嚥」19.2% (509件)、「転倒」14.9% (394件)、2歳以上6歳未満では「転落」26.0% (559件)、「転倒」22.2% (476件)、「ぶつかる・当たる」19.0% (407件)の順で「転落」がどの年齢層においても1位であるが、6歳以上12歳以下では「ぶつかる・当たる」23.9% (143件)が1位であり、「転倒」19.9% (119件)、「転落」16.6% (99件)と続いた。年齢が上がると行動範囲が広がったことも影響していると考えられた(図7-2、不明:0歳以上2歳未満1件、2歳以上6歳未満1件)。

危害の程度別にみると、「転落」「転倒」はそれぞれ「軽症」「中等症」「重症」の5位以内に入っていた。「転落」「転倒」をあわせると「軽症」のうち47.7% (2,409件)、「中等症」のうち49.7% (162件)、「重症」のうち37.5% (6件)を占めた。「転落」「転倒」をあわせた2,577件は12歳以下の家庭内事故5,390件のうち約5割近くを占めた(別表)。

事例をみると、階段やベッド、ソファ等からの転落や、机・テーブル等にぶつかる等の事例、階段、風呂場での転倒等が多くみられた。

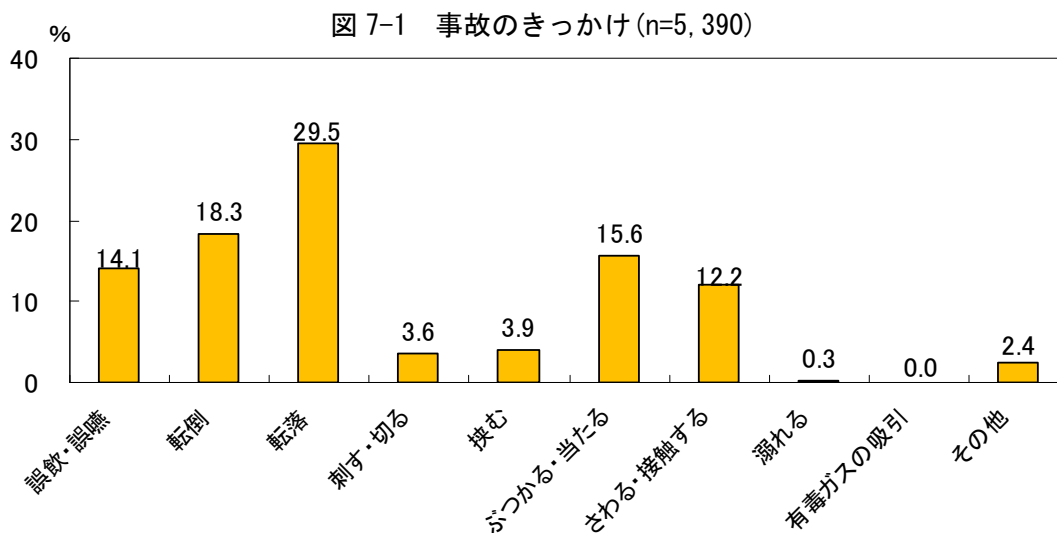
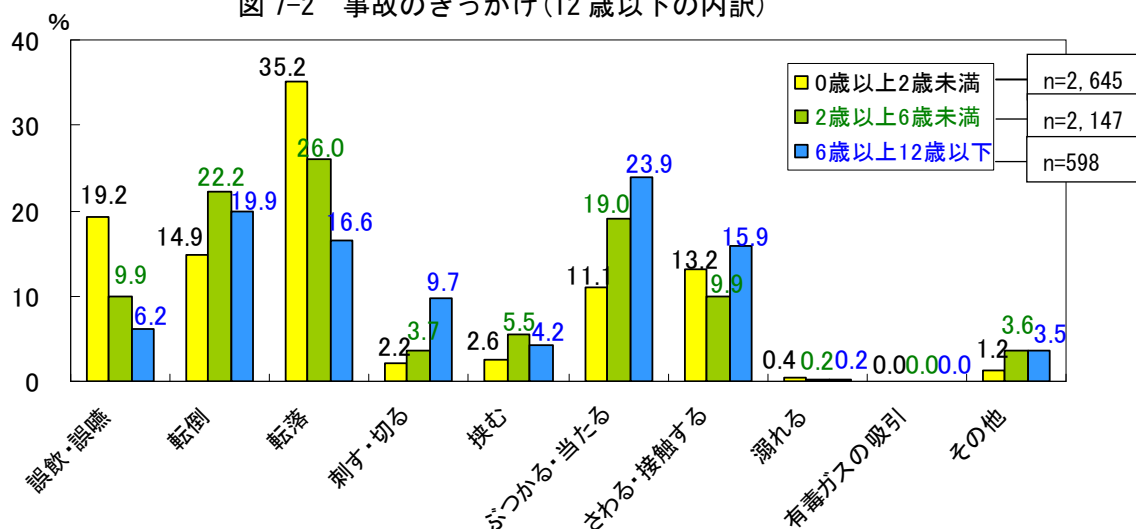


図 7-2 事故のきっかけ(12歳以下の内訳)



○情報提供先

消費者庁消費者安全課

消費者委員会事務局

本件問い合わせ先

商品テスト部：042-758-3165

6. 参考資料

(1) 児童福祉法 第一節 定義

第四条 この法律で、児童とは、満十八歳に満たない者をいい、児童を左のように分ける。

- 一 乳児 満一歳に満たない者
- 二 幼児 満一歳から、小学校就学の始期に達するまでの者
- 三 少年 小学校就学の始期から、満十八歳に達するまでの者

(2) 子どもの事故に関わる参考資料、行政機関等の取組み等の一例

- 1) 子どもを事故から守る！プロジェクト(消費者庁ホームページ)

<http://www.caa.go.jp/kodomo/index.php>

- 2) 「子どもに安全をプレゼント」事故防止支援サイト(国立保健医療科学院ホームページ)

<http://www.niph.go.jp/soshiki/shogai/jikoboshi/index.html>

(3) 事故による傷害予防として何をしたらよいかの例 (抜粋)

提供：山中 龍宏 医師

以下の項目は、優先すべき事故による子どもの傷害予防策である。

浴槽での溺水	洗い場から浴槽の縁までの高さが50cm以下の浴槽は転落する危険性が高いと認識する
	子どもが2歳になるまで残り湯をしない
	子どもが浴室に入れないようにする
	子どもだけで入浴させない
	子どもと入浴中は電話が鳴っても決して出ない
	入浴時は、子どもを後から浴室に入れ、出るときは子どもを先に出す
	浴槽で足入れ付き浮き輪や首浮き輪は使用しない
誤飲・窒息	浴槽の蓋は厚くて硬いものを使用する
	口径39 mm以下の大きさのものは、床面から1m以上の高さの場所に置く
	誤飲チェッカー（(社)日本家族計画協会）でチェック
	セーフティ・キャップの水薬ビンの使用
	飲み物の容器に食品以外のものを入れない
	灯油缶に使用する簡易ポンプは小児の手の届かないところに片づける
	一口サイズの食品で、ある程度の硬さがあるものは切って食べさせる（ミニトマト、ブドウ、みたらし団子、白玉団子、こんにやく入りゼリー、ホットドッグなど）
気管支異物	高齢者用の餅を食べる
	早食い競争の禁止
	3歳（または5歳）になるまで乾いたピーナッツは食べさせない
	仰臥位や歩きながらものを食べさせない
	小さな食物塊やおモチャなどを放り上げて口で受けるような食べ方や遊びをさせない
熱傷	急停車する可能性がある車や揺れる飛行機のなかで乾いた豆は食べさせない
	食事中に乳幼児がびっくりするようなことは避ける
	給湯温度の設定を50℃以下にする
	子どもを熱源から遠ざける
	浴槽の蓋の強度を確認する
	テーブルクロスは使用しない
	熱湯の蒸気が出る加湿器は使用しない
最高50℃の蒸気しか出ない炊飯器を使用する	
階段からの転落	蒸気が出ない炊飯器を使用する
	転落予防の柵をつける
ベッドからの転落	ベビーベッドの柵は常に上げる
	ベッド柵の足掛かりから柵の上部まで50cm以上確保する
ベビーカーからの転落	乳児を大人用ベッドに寝かさない
	5点式ハーネスで拘束
クーハン、歩行器、ショッピングカートからの転落	ベビーカーを止めたときに安定、固定の確認
	使用しない。使用する場合はベルトで固定
ベランダや窓からの転落	手すり柵の高さは足掛かりから90cm以上
	足掛かりは20mm未満
	手すりとのすき間は11cm以内
	踏み台となるものは手すり柵から60cm以上離して設置
	窓際にベッドやソファや椅子を置かない
絞扼・窒息	学校の校舎、マンションの天窓は柵でカバーする
	高層ビルには窓ガードの設置
	公園で遊ぶときは、かばん、水筒、ゲーム機、自転車用ヘルメット、携帯電話機などループになったヒモ状のものは身につけない
	遊具で遊ぶときは、フードつきの上着、首周りにヒモのついた服を着ない
	ヒモのループはすぐに外れやすい仕掛けにする
ガラスへの衝突	ブラインドのコードのループは切る
	大人用ベッドに乳幼児を寝かせない
	成人の腰の高さ以下は、強化ガラスを使用する
	玄関ドアの蝶番側にカバーをつける
ドア、窓で挟む事故	ドアクローザーの使用
	子どもを確認後に自動車のドアを閉める
	自動車のチャイルドロックの使用
	防火シャッターは安全停止装置付きのものとする
口腔内・眼球・耳刺傷	ドア・ベグの使用
	箸、割り箸、歯ブラシ、フォーク、鉛筆、太鼓のばちなど尖ったものを持って歩かせない
	耳かきのまねをして耳道に刺傷、耳かき中にぶつかり刺傷の例があり、5歳以下では耳かき棒を使わせない、耳かき中は周囲の状況に注意する
	綿菓子の芯は、割り箸ではなくペーパーロールとする

(別表) 家庭内事故の概要

	12歳以下		12歳以下詳細別																						
			年齢階層別							危害程度別															
	0歳以上2歳未満		2歳以上6歳未満		6歳以上12歳以下		軽症		中等症		重症		重篤												
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%									
事故全体		7,997		3,107		3,382		1,508		7,367		606		23		1									
うち家庭内事故		5,390	67.4	2,645	85.1	2,147	63.5	598	39.7	5,047	68.5	326	53.8	16	69.6	1	100.0								
危害内容	1位	擦過傷・挫傷・打撲傷	3,036	56.3	擦過傷・挫傷・打撲傷	1,490	56.3	擦過傷・挫傷・打撲傷	1,269	59.1	擦過傷・挫傷・打撲傷	277	46.3	擦過傷・挫傷・打撲傷	3,015	59.7	骨折	120	36.8	熱傷	6	37.5	窒息	1	100.0
	2位	異物侵入	828	15.4	異物侵入	493	18.6	異物侵入	288	13.4	刺傷・切傷・裂傷	116	19.4	異物侵入	808	16.0	熱傷	73	22.4	骨折	3	18.8			
	3位	刺傷・切傷・裂傷	583	10.8	熱傷	324	12.2	刺傷・切傷・裂傷	273	12.7	熱傷	79	13.2	刺傷・切傷・裂傷	553	11.0	刺傷・切傷・裂傷	30	9.2	異物侵入/頭蓋内損傷	2	12.5			
	4位	熱傷	567	10.5	刺傷・切傷・裂傷	194	7.3	熱傷	164	7.6	異物侵入	47	7.9	熱傷	488	9.7	擦過傷・挫傷・打撲傷	21	6.4	びらん・炎症(眼・皮膚障害等)/呼吸器障害/内臓損傷	1	6.3			
	5位	骨折	132	2.4	その他の傷病及び諸症状	35	1.3	骨折	64	3.0	骨折	39	6.5	その他の傷病及び諸症状	63	1.2	頭蓋内損傷	20	6.1						
危害部位	1位	顔面	1,240	23.0	顔面	594	22.5	顔面	567	26.4	頭部	127	21.2	顔面	1,211	24.0	上腕(肩)・前腕	69	21.2	腹部	5	31.3	首	1	100.0
	2位	頭部	1,194	22.2	頭部	582	22.0	頭部	485	22.6	顔面	79	13.2	頭部	1,150	22.8	頭部	42	12.9	上腕(肩)・前腕	4	25.0			
	3位	口・口腔・歯	541	10.0	口・口腔・歯	345	13.0	手指	190	8.8	手指	64	10.7	口・口腔・歯	524	10.4	顔面	29	8.9	頭部/胸部・背部	2	12.5			
	4位	腹部	505	9.4	腹部	324	12.2	口・口腔・歯	172	8.0	ないない 大腿・下腿	48	8.0	腹部	482	9.6	手指	25	7.7	大腿・下腿/全身/気道	1	6.3			
	5位	手指	404	7.5	手指	150	5.7	腹部	154	7.2	上腕(肩)・前腕	29	4.8	手指	379	7.5	手掌・手背(手首)	23	7.1						
事故の発生場所 (屋内)	1位	居室	3,201	63.8	居室	1,700	67.0	居室	1,207	61.4	居室	294	56.9	居室	3,018	64.2	居室	173	57.3	居室	9	64.3	居室	1	100.0
	2位	台所・食堂	602	12.0	台所・食堂	317	12.5	階段	232	11.8	台所・食堂	83	16.1	台所・食堂	545	11.6	台所・食堂	53	17.5	台所・食堂	4	28.6			
	3位	階段	481	9.6	階段	206	8.1	台所・食堂	202	10.3	階段	43	8.3	階段	459	9.8	階段	22	7.3	風呂場	1	7.1			
	4位	風呂場	194	3.9	風呂場	64	2.5	風呂場	95	4.8	風呂場	35	6.8	風呂場	172	3.7	風呂場	21	7.0	-	-	-			
	5位	玄関	102	2.0	玄関	36	1.4	玄関	52	2.6	玄関	14	2.7	玄関	101	2.1	その他	15	5.0	-	-	-			
原因となった 商品・設備	1位	階段	539	10.0	ベッド	230	8.7	階段	271	12.6	階段	54	9.0	階段	517	10.2	階段	22	6.7	電気ポット	4	25.0	他の健康器具	1	100.0
	2位	ベッド	309	5.7	階段	214	8.1	いす	116	5.4	ドア	25	4.2	ベッド	297	5.9	ソファ	14	4.3	集合住宅	2	12.5			
	3位	ソファ	241	4.5	ソファ	126	4.8	机・テーブル類	109	5.1	保健衛生品その他	23	3.8	机・テーブル類	235	4.7	いす	13	4.0	ベッド/ソファ/他の玩具・遊具/鍋/積木/電気ポット類/他の菓子類/やかん/他の風呂用具/車庫					
	4位	机・テーブル類	238	4.4	机・テーブル類	112	4.2	ドア	107	5.0	いす	19	3.2	ソファ	226	4.5	ベッド	11	3.4		1	6.25			
	5位	いす	235	4.4	幼児用イス	105	4.0	ソファ	104	4.8	即席めん	18	3.0	いす	222	4.4	浴槽/コーヒー	8	2.5						
きっかけ	1位	転落	1,588	29.5	転落	930	35.2	転落	559	26.0	ぶつかる・当たる	143	23.9	転落	1,473	29.2	転落	110	33.7	さわる・接触する	7	43.8	挟む	1	100.0
	2位	転倒	989	18.3	誤飲・誤嚥	509	19.2	転倒	476	22.2	転倒	119	19.9	転倒	936	18.5	さわる・接触する	72	22.1	転落	5	31.3			
	3位	ぶつかる・当たる	843	15.6	転倒	394	14.9	ぶつかる・当たる	407	19.0	転落	99	16.6	ぶつかる・当たる	815	16.1	転倒	52	16.0	誤飲・誤嚥	3	18.8			
	4位	誤飲・誤嚥	759	14.1	さわる・接触する	349	13.2	誤飲・誤嚥	213	9.9	さわる・接触する	95	15.9	誤飲・誤嚥	726	14.4	誤飲・誤嚥	30	9.2	転倒	1	6.3			
	5位	さわる・接触する	656	12.2	ぶつかる・当たる	293	11.1	さわる・接触する	212	9.9	刺す・切る	58	9.7	さわる・接触する	577	11.4	ぶつかる・当たる	28	8.6	-	-	-			

期間 : 2010年12月 - 2012年12月末

情報収集先 : 全国13の参画医療機関

<title>医療機関ネットワーク事業からみた家庭内事故 - 子ども編 - </title>